

## 樹脂フィルム袋、 企画段階から一貫サービス

- 納期相談
- 企画力自信有
- コスト相談
- メイトインジャパン
- 試作可小ロット
- 量産対応



吊り下げ式の「セリスバック」の商品事例

**業務内容**  
吊り下げ式、日用雑貨や文具、  
野菜のオクラ用など多品種に対応

PP（ポリプロピレン）樹脂フィルムを用いた包装袋の企画・印刷、製袋を手がけている。さらに顧客の要望に応じ、商品の最終加工工程、袋詰め作業の業務もセットアップ事業とし、一貫サービスで提供する。独自考案した吊り下げ式袋「セリスバック」は業界で高い認知度のブランドで、各種の日用雑貨、文具用などに採用されている。また野菜の売り場で見かけるオクラの入ったネット袋は、フィルムで蓋部分を溶着するのがミソで、従来の止め金具に代わり、広く普及している。このほか粘着剤の技術の応用展開に注力。台所用汚れ防止シートは日用品メーカーとの共同開発で、現在は市場の定番品。また新分野として平成20年から医療機器での展開を探っている。

**強み**  
特許出願1,000件、  
周辺設備のノウハウも

先代社長の頃から袋や粘着のユニークなアイデアには定評があり、出願した特許数は累計で1,000件近くに上る。現状で維持・活用している特許が約40件あり、戦略的に保有数を絞り込みつつ、現在は年2件ペースで新規出願している。

併せて、袋詰めする充填機などで自社開発の実績が豊富。省力設備をテコに製品メーカーのニーズに添えて、袋詰めを含む仕上げ加工を受託するセットアップ事業に役立っている。機械設備は外販もしており、化粧品容器の内蓋となる気密性フィルムの型抜き・貼り付け機械は隠れたヒット商品としてユーザー現場で好評を得ている。

**社員重視**  
新理念で社員個々の  
幸せと成長を重視

平成27年に社内で1年間かけて議論を重ね、新経営理念を策定した。新経営理念では、従来の顧客満足に置き換えて、まず第一に社員一人ひとりの幸せと成長を据えた。社内では、社員1人が10人のファンをつくることを目標としており、その実現のためには社員の人間力向上が必要になるとの判断だ。作成したクレド（信条）を浸透させるため、各拠点では毎週ミーティングでクレドの項目から引用して、当番制で3分間スピーチをする。

社内を大事にする一例として、育児休業に対するカバ体制を各職場の工夫で定着させ、女性社員の中には子どもを3人出産して職場に復帰したケースもある。さらに平成29年春、特別支援学校から卒業予定者を初めて採用する。「過去2回現場実習で受け入れ、働く喜びをかみしめ、純粋に一生懸命働く姿に社員は心を打たれ、職場の雰囲気も温かくなった」と山形勇仁社長は採用する意義を語る。

**後の展望**  
3拠点体制を整備、  
期待の医療と粘着技術

平成28年に香川工場（香川県仲多度郡）からPP袋の溶断ラインを本社に移設した。それに伴い香川工場はセットアップ、医療、粘着系の設備を拡充した。千葉県木更津市では平成26年、平成28年とセットアップ工場を計2カ所構えた。これで香川・本社・千葉の3拠点での生産、品質管理の体制を整えた。成長分野と位置づけるのが、医療機器分野と、粘着技術の応用。医療機器は本社近隣の大学と産学連携に動き出したほか、検査キットのセットアップ事業を始めた。平成20年に医療機器製造業の許可を取得済みで、5年以内に自社製品を市場投入することを計画。目標として、規模は社員数100名程度、質の高い会社づくりに力を入れる方針だ。



本社工場



主力の香川工場

## 当社の歴史



先代の山形一紀が大阪市内でグラビヤ印刷会社を創業しました。製袋業にも乗りだし、独自の吊り下げ式の樹脂製袋を開発しました。香川県内の工場を主力に、本社、千葉県木更津市の3地域で生産し供給。個々の知恵から生まれる「創」、心を合わせて力を結集する「合」、その2つが合わさった「創・合・力」を信条にしています。

代表取締役社長 山形 勇仁さん

<http://www.yamagata-group.co.jp/>

### 主な事業内容

プラスチック製品製造業

### 主な取引先(納入先)

日用品メーカー、文具メーカー、印刷系商社、医療機器メーカー

### ●住所

〒581-0038  
八尾市  
若林町2-99

- TEL 072-949-9456
- FAX 072-949-9792
- 創業 昭和36年11月
- 設立 昭和46年5月
- 資本金 2,000万円
- 従業員 45名

ISO 9001